

エグゼクティブサマリ

キーメッセージ

- ケア記録ソフト等の導入研修を実施した介護サービス事業所・施設はその後のケア記録ソフト等の使いこなし状況を高く評価している。
- ICTを活用して記録作業や情報共有するためのリスキリング研修には、介護職員が必要とするデジタル知識の獲得とスキルを向上させ、組織としてのICT活用力を高める効果が期待できる。
- 導入研修を実施した多くの事業所は導入研修に満足している。多くの介護ベンダーも導入研修を重視し多様なサポートを用意している。ケア記録ソフト等の導入時には、介護ベンダーに対し導入研修の協力を相談することが推奨される。
- 多くの事業所は、現在、基本的な操作が定着し日々のケアや観察結果をデジタル化している段階にあると考えられる。ケア記録ソフト等の基本的な活用ができる事業所を増やすとともに、蓄積したデータをケアの品質向上に活用できる組織づくりが次なる課題である。

研究の概要

本研究は研究成果のICT導入支援事業等での活用を念頭におき、ケア記録ソフト等の導入研修の実態とその有用性等を明らかにすることを目的とし、全国の介護サービス事業所・施設と居宅介護支援事業所（以下、事業所）や介護ベンダーに対するアンケート調査とヒアリングを実施した。対象となる全国の事業所は都道府県とサービス種別で二段階抽出法で無作為に抽出した（回収数911件／回収率18.8%）。介護ベンダーは先行研究等を参考に全国から任意に抽出した（回収数11件／回収率31.4%）。

主な結果1 導入研修の実施とケア記録ソフト等の使いこなしの関係

導入研修が、その後のケア記録ソフトの使いこなしの向上に対して積極的な影響を与える可能性がある、という考えを支持する結果だった。ケア記録ソフト等の導入研修の開催は、その後の事業所全体としてのケア記録ソフト等の使いこなしの自己評価と関連した(p<.05)。導入研修を開催していない事業所がケア記録ソフト等を事業所全体として使いこなししていると回答した割合は76.6%だったのに対し、導入研修を開催した事業所は84.8%と8.2%ポイント上回った。「当てはまらない」と回答した割合は未開催の事業所では13.3%であり、研修を開催した事業所では3.7%と9.6%ポイント下回った（図1）。

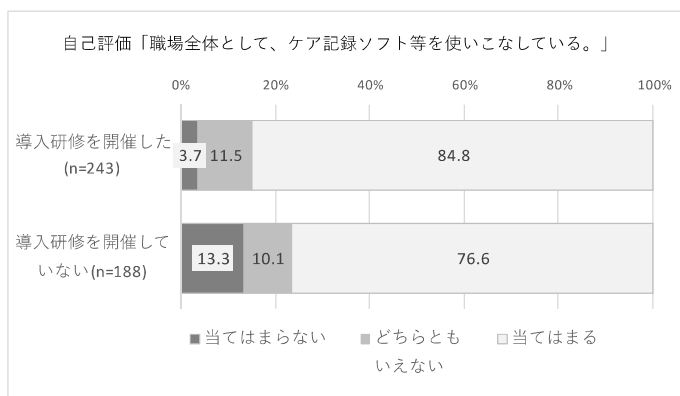


図1 導入研修の実施とケア記録ソフト等の使いこなしの関係

## 主な結果2 導入研修の有用性

導入研修を実施した事業所のうち、導入研修が「ある程度、役に立ったと思う」と「大いに役立ったと思う」の合計は96.4%と極めて高く、多くの事業所が導入研修の有用性を実感していた（表1）。

表1 ケア記録ソフト等の使いこなしに対する導入研修の有用性

Q9介護職員全般のケア記録ソフト等の使いこなしの対する導入研修の役立ち あまり役立たなかったと思う	介護サービスの類型					Total
	訪問系	通所系	施設・居住系	多機能系	居宅介護支援	
	1	3	3		2	9
	1.5%	6.4%	3.4%		5.1%	3.7%
ある程度、役立ったと思う	48	36	63	5	27	179
	71.6%	76.6%	72.4%	100.0%	69.2%	73.1%
大いに役立ったと思う	18	8	21		10	57
	26.9%	17.0%	24.1%		25.6%	23.3%
Total	67	47	87	5	39	245
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## 主な結果3 導入研修の実施状況

本調査結果ではケア記録ソフト等の導入研修が有用である可能性が示唆されるが、導入研修を実施したと回答した事業所は55.7%であり、ケア記録ソフト等を導入した事業所の半数程度にとどまる。導入研修を実施した事業所の内訳でみると、介護ベンダーの支援・協力を得て導入研修を実施した事業所は67.7%だった。

## 主な結果4 導入研修に対する介護ベンダーの支援・協力

導入研修に対する介護ベンダーの支援・協力を内容別にみると、「講師の派遣」が53.0%と最も多かった。次いで「研修テキストや教材の提供」が33.1%、「介護ベンダー等主催の研修会（日程調整、研修会の準備、研修会の運営等）」33.1%、「介護ベンダー等が用意したオンライン研修の紹介」が27.1%だった。

介護ベンダー向け調査では、11社のうち10社（90.9%）は、事業所に対する導入研修の支援・協力を重視していると回答している。また、介護事業所に対する導入研修の提案について、「必ず提案している」は11社のうち8社（72.7%）、「求めに応じて提案している」は11社のうち3社（27.3%）と回答していた。

## 主な結果5 ケア記録ソフト等の使いこなし状況

ケア記録ソフトの基本的な機能を使用している事業所は多いものの、蓄積された利用者データを活用してケアの品質向上まで実現している事業所は限られている。ケア記録ソフトを活用する熟練状況を段階的に評価すると、多くの事業所が現在、基本的な操作が定着し、日々のケアや観察結果をデジタル化している段階にあると考えられる。

具体的には、ケア記録ソフト等の使いこなしの事業所の自己評価をみると、「職場全体のケア記録ソフト等を日常的に使いこなしている」が当てはまると回答した事業所の割合（「ある程度」と「よく当てはまる」の合計）は80.6%と高かった（図2）。「介護職員はテキスト入力項目を活用し、利用者の状態や様子を詳細に記録している」が当てはまると回答した割合は73.3%だった。他方、「介護職員は、記録ソフト等の集計・分析機能を使い、利用者の状態像の変化を定量的に確認する行為が日常的に定着している」が当てはまると回答した割合は27.4%、「介護職員は、記録ソフトの集

計・分析機能を使い、ケアカンファレンスや安全対策の検討に活用している」が当てはまると回答した割合は29.3%だった。(図2)

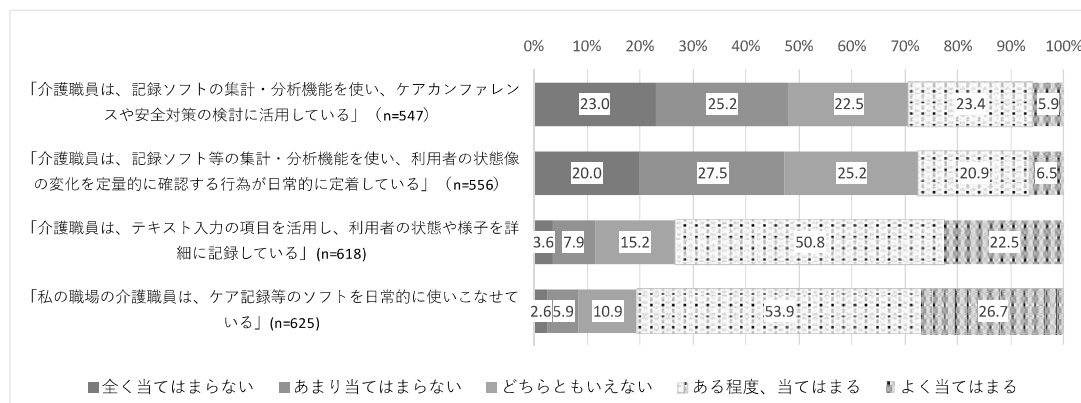


図2 ケア記録ソフト等の使いこなしに関する事業所の自己評価

### 主な結果6 導入研修で扱ったテーマや内容

ケア記録ソフト等の導入研修の内容について、扱ったテーマ別に見ると、「購入したケア記録ソフト等を使った記録や入力方法」が最も多く81.0%だった。次いで、「パソコンやタブレット等の操作方法」が71.4%で続いた。このテーマには電源の入れ方や記録ソフト等からの印刷の仕方といった周辺機器の操作方法も含む。その他、「ケア記録ソフト等を試しに操作するワークや練習」、「ICTを使って仕事することの介護職員等にとってのメリットや利点」、「購入したケア記録ソフト等やパソコン等の使用時トラブルへの対応・問い合わせ方法」について、それぞれ50%以上の事業所が導入研修で扱ったと回答した。ケア記録ソフト等の操作方法と周辺機器の取り扱いが多くの研修で取り入れられているのは、パソコン等の操作に不慣れなことが多い高齢の職員（60歳以上との指摘が多い）に対する配慮と捉えることもできる。(図3)

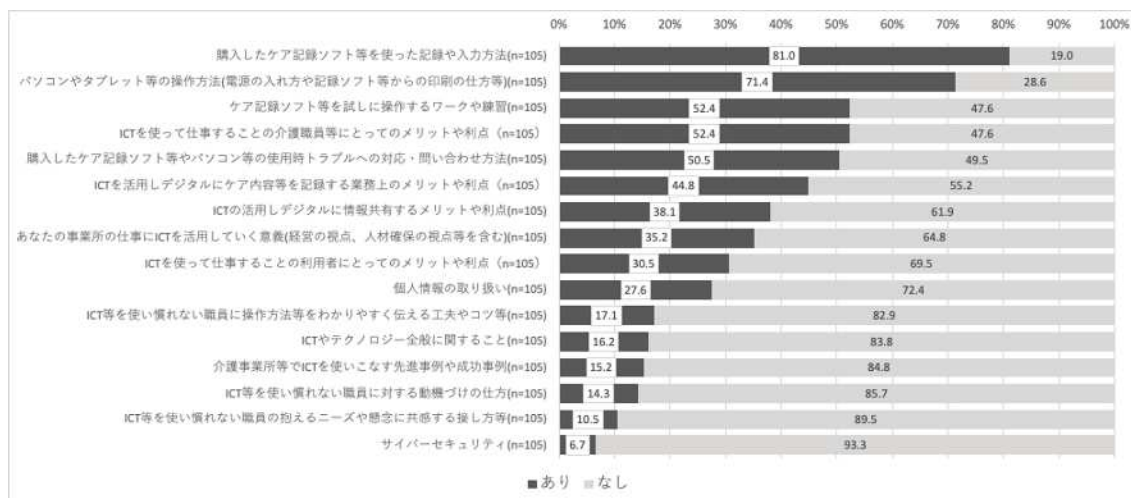


図3 ケア記録ソフト等の導入研修で扱ったテーマ等